

プロの演奏家が指導

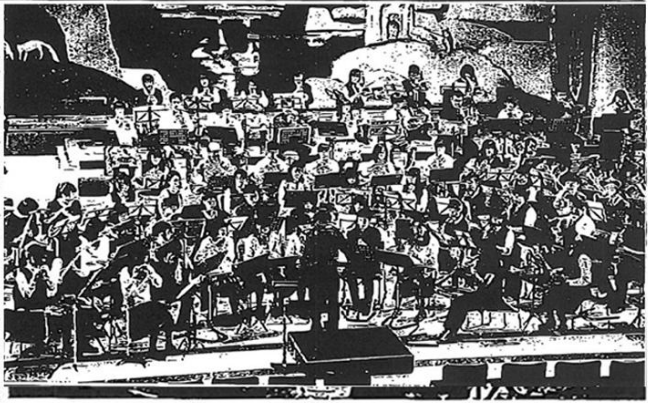
吹奏楽フェス in 日高も開催

【新ひだか】プロの音楽家 回北海道吹奏楽フェス演奏家による町内中・高ティバル in 日高（吹奏楽部の演奏指導と行委主催）が6月26日、ミニコンサートの「第5」町公民館で開かれた。

道内の音楽交流や吹奏楽の向上と普及を図る事業。プロ演奏家で構成する管楽合奏団「札幌管楽ソリストン」（富中秀幸代表、22人）が札幌を中心に中高生や大学生を演奏指導している。日高での指導は静内高吹奏楽部顧問の野村真之教授と、島中代表の縁で実現し、今回も日本高校吹奏楽連盟副理事長の米谷久男さんが特別講師を務め、生徒たちはプロの演奏家とともに吹奏楽コンクール課題曲の演奏に磨きをかけた。

25日に静内高吹奏楽部、26日は静内高と静内中、えりも中、三石中の4校の吹奏楽部員が参加し、ソリストンメンバーが各楽器のパートごとに生徒について合奏する方式で、直接指導を受けた。

特別指導に当たった米谷さんは元札幌白石高吹奏楽部顧問で、全国大会で5年連続金賞受賞などトップレベルの実績を誇っている。一般に公開された三石中の指導で



ミニコンサートでは参加者全員が演奏を披露

は、米谷さんが全体のメモロディーのバランスを取ることや隣の人の言を聞くことの大切さをアドバイス。

続いてミニコンサートが開かれ、ソリストンメンバーによる「嵐の人々」風の谷のナウシカより「一人ひとり」が各楽器の魅力を紹介した後、一部生徒らも加わって「マーチスカイプルー・ドリー」を演奏。最後に米谷さん指揮で参加者全員による「嵐の舞うところ」。「ヨークシャー・バラード」を披露。迫力の大演奏で聴衆を魅了した。ソリストンの島中代表は「プロの演奏を生で聴くことが重要で、日高の子どもたちはプロの言を聞く機会が少ないと思うので教えがいがある。今後もしっかり聞いてほしい」と話していた。